

お客さまの信頼に応える 健全な経営を実現するために

生保労連の経営の健全性確保に関する取組み

生保産業は、お客さまの信頼なくして成り立たない産業です。わたしたちは、お客さまの信頼に一層応える健全な経営を実現するために、経営に対するチェック・提言活動等を通じて、労働組合としてのコーポレート・ガバナンス（企業統治）機能の発揮に努めています。

生保経営をめぐる現状

生保経営をめぐる新たな課題

生保業界では新契約高・保有契約高の減少が依然続いていますが、明るい兆しも見えています。資産運用状況も景気の回復に伴い運用環境が改善し、逆ザヤの縮小、配当収入の増加などの明るさも見えています。こうしたことから、生保経

営においては今後、お客さまのさらなる信頼向上をはかるため生保事業の社会的使命の達成が重要な視点となっており、財務面での健全性から業務運営にわたる経営全般の健全性を高める取組みがますます重要となっています。

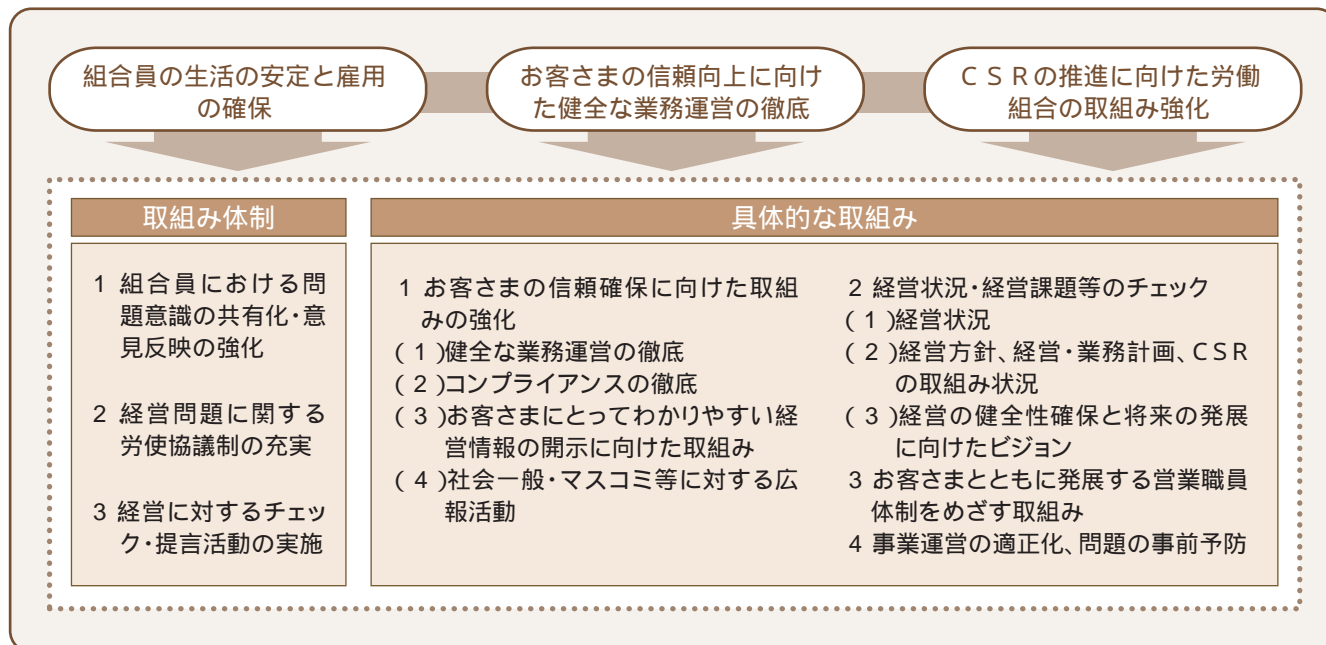
わたしたちの基本的な考え方

コーポレート・ガバナンス機能の一層の発揮に向けて

健全な企業経営・業務運営が求められる中で、コーポレート・ガバナンス機能の強化が重要となっています。コーポレート・ガバナンスはすべてのステークホルダー（利害関係者）による実践が基本となりますが、とりわけ現場の事情に精通した従業員（労働組合）の役割・機能発揮が極めて重要と考えます。

わたしたちは、経営の健全性確保に向けてコーポレート・ガバナンス機能を一層発揮していくために、組合員における問題意識の共有化・意見反映の強化、経営問題に関する労使協議制の充実、経営に対するチェック・提言活動の実施等、取組み体制の充実をはかりつつ、お客さまの信頼向上に向けた取組みを行っています。

生保労連の「経営の健全性確保の取組み」の全体イメージ

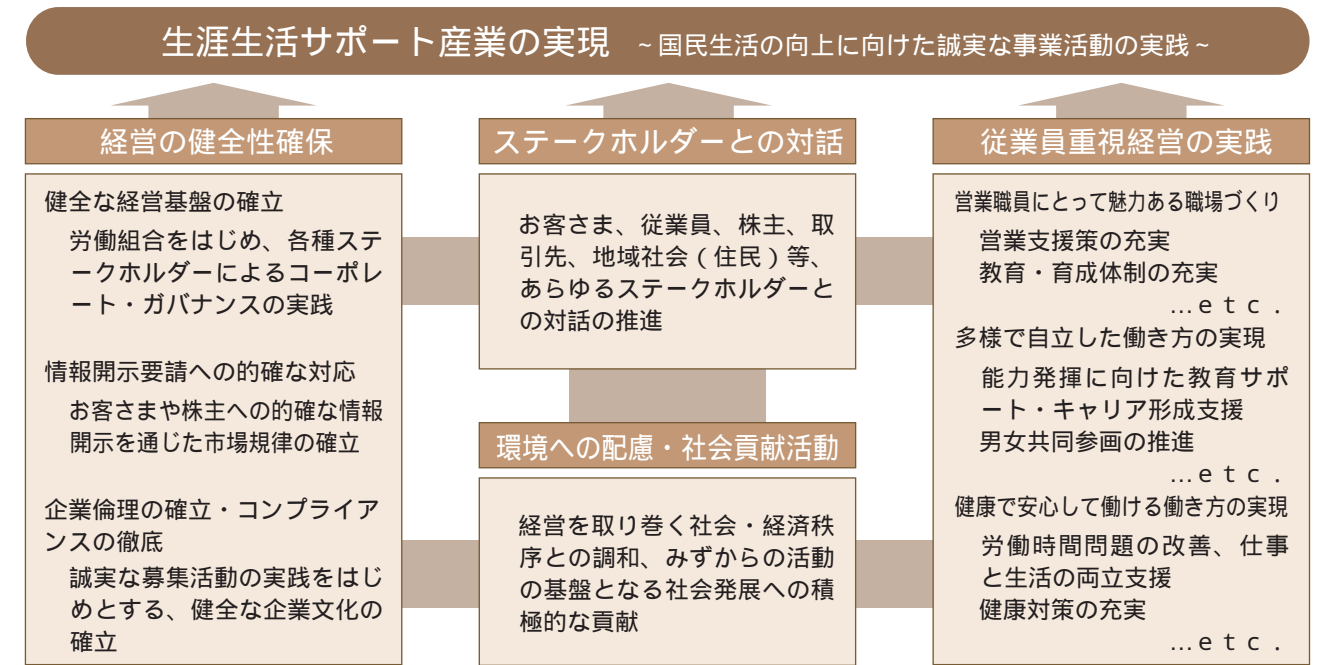


経営の健全性確保は「生保産業におけるCSR」を支える重要な柱

CSR（企業の社会的責任）の実践が、お客さまや社会が企業を評価・判断する際の重要な要素となりつつある中で、経営の健全性確保は事業発展の礎であり、CSRの重要な柱といえます。

わたしたちは、「経営の健全性確保の取組み」を「生保産業におけるCSR」を支える重要な柱と位置づけ、CSR推進の観点からも本取組みを積極的に推進しています。

「生保産業におけるCSR」のイメージ



わたしたちの取組み

お客さまの信頼向上に向けて 労働組合としての取組みを強化しています

経営の健全性確保をはかる上でお客さまの信頼向上が重要となっている中で、健全な業務運営の徹底、コンプライアンスの徹底、適切でわかりやすい情報開示のあり方等について、積極的な労使協議を行っています。

特に、コンプライアンスについては、健全な業務運営の基本であり、経営にその徹底を求めるとともに、労働組合みずからも、現場で働く従業員の立場から、コンプライアンスの実効性確保に向けた一層の役割発揮に努めています。

労働組合の立場から 経営に対するチェック・提言活動に努めています

経営情報の開示を求める中で、経営状況、決算見通し等について定期的にチェック・フォローを行い、会社の経営・業務運営全般にわたり積極的な労使協議を行っています。また、会社や組合員の将来に大きな影響を及ぼす経営

方針、経営・業務計画、将来ビジョン等についても、課題認識の共有化をはかるとともに、労働組合の立場から積極的な意見反映を行っています。

事業運営の適正化、問題の事前予防に努めています

経営の健全性確保に向けては、よりお客さまの視点に立った事業運営が求められています。わたしたちは、お客さまに近い現場の視点に立ち、事業運営の適正化等に向けて積極的な取組みを行っています。

また、わたしたちは、「労働時間問題の取組み」「職場環境改善の取組み」等を通じ、従業員の労働実態や環境に問題が生じないよう取組みを進めています。